

# 清水 ゆき

かいせいまちぎかいぎいん  
開成町議会議員

## 令和8年春夏号 活動報告書

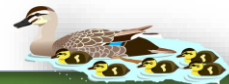
撮影 2025年10月牛島地区、地球温暖化対策に植林されたモリンガ畑にて

討議資料発行：令和8年5月  
発行責任者：清水友紀支援の会  
連絡先：※紙面に掲載  
yukishimizu06@gmail.com

日々の活動、報告は以下で配信中!  
↓ブログ ↓X (旧ツイッター)



【ごあいさつ】日頃より多くのお声かけや温かいご声援<sup>せいえん</sup>をいただき、心より感謝<sup>かんしゃもう</sup>申し上げます。  
議員の任期4年のうち、残り最後の1年も、全力を尽くしてまいります。本紙では、令和7年  
10月から令和8年3月の活動<sup>こうごく</sup>を中心に報告させていただきます。



### 1 ふるさとゾーン（農業振興地域）の生活に寄り添った取り組みを

町が誇りとする地区を維持する人たちの、日々の生活のために

3月議会一般質問より

農業振興地域と定められている主に町北部は、のどかな景色が美しく、お米や野菜は美味しく、町が自慢とするところです。一方で、住宅建設等の制限があるため、少子高齢化が著しく進んでいる地区でもあります。

現状は認識していると町は主張します。しかし、町の方針を定める長期計画を策定する際、町民アンケートで「居住地」のほか「買い物の便利さ」など生活実態を尋ねているにもかかわらず、居住地別に分析されていないこと、そのため計画への反映が不十分ではないかと指摘しました。

町北部、岡野地区を中心に30名以上の方から直にお話を伺ったうえで、町が誇りとする一帯を維持している人々の、日々の暮らしに寄り添った具体的な施策がすぐに必要だと、議場で強く訴えました。



四季折々の魅力がある農地。秋は甘い柿もたわわに実っていました。

～現地インタビューでとくに多かった買い物先とバスについての要望を町にお届け～ 質疑応答(抜粋) ↓

問 「生活の質を上げ、住み続けたいと思うまちづくり」と言うが「**買い物する場所がほしい**」という現地の長期に渡る強い要望については。



⇒答 今この場でお約束はできないが**移動販売**の仕組みも、現状や様々な課題等を踏まえて検討していきたい。

問 高齢化で免許返納する近い将来を心配する声や、子どもの下校時の安全を心配する声がある。曜日や時間を限定し**南北直通に走る路線バス**を設ける考えは。

⇒答 北部に寄り添ったかたちで、町全体の福祉コミュニティバスの利便性をさらに向上させるよう検討する。

### 農業の継続・・・新規就農者の育成策は

私は令和5年の一般質問で「**地域活性化と環境保全を担う農業**」をテーマに、農地の貸し借りには町がもっと介入するよう求めていました。

今回、改めて農協との連携と、**既存農家さんが安心して農地を貸せるような町の介入方法**について問いました。

町はまず新規就農希望者に町の農地で試験的に農業をしていただき、段階を踏み就農する制度を整えようとしています。

制度設計には、農協や農家等、農業関係者の方々のご意見を聞きながら進めていくとのことでした。



私はふれあい農園で野菜作り

### 水路の維持管理もしっかり!

「町が誇りとする水路と言うのなら、もっとしっかり予算を充てて維持管理を」という現地のご意見。

また「農家が負担金を出し合って水路を管理する『右岸土地改良区』は農家の減少もあり運営が厳しい」という当事者の声。

**3月予算審議**では、それらの訴えを改めて伝え、例年から予算増額がない理由を追求、今後の動きを問いました。

現地の話や自治会要望等で現状をしっかり確認しながら判断していく、という姿勢が示されたので、引き続き現地の状態と町の動きを注視していきます。